

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900719	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	有限会社 ぱすてる		
事業所名	どんぐり庵		
所在地	(〒243-0213) 神奈川県厚木市飯山2237-9		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成30年12月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・有限会社ぱすてるは、厚木市において、認知症デイ1軒、認知症対応型共同生活介護を2軒運営しております。社長は看護師で以前より認知症の方の行き場所が無いことを問題視しておりました、  
 ・14年前に認知症デイを普通の「民家を改造して始めましたが、大勢の中で落ち着かない認知症の方が、認知症デイでは落ち着き職員と一緒にあって、その人らしい生活が出来る手ごたえを感じ、3年後にグループホームを始めました。  
 ・当初から看取りを視野に入れての開設ですので、元気な利用者から100%介助の方まで様々な方が生活しております。買い物・食事作り・後方付け・洗濯物干し等職員と一緒にこない、認知症の進行・体力の低下を少しでも緩やかにと思い日々実行しております。また、季節のイベントもたくさんあります。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成30年11月13日	評価機関 評価決定日	平成30年12月6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の優れている点】

◇活発な意見交換を活かした運営推進会議の取り組み  
 運営推進会議は、地域代表や民生委員、ボランティア、地域包括支援センターと市役所の職員、利用者と家族をメンバーとして、2か月ごとに開催している。会議では、事業所の運営状況を中心に職員の研修やイベントの実施状況、また、利用者の事故報告やヒヤリハット事例を報告している。参加者からは地域情報を得、出された意見をサービス向上に活かすとともに、詳細な議事録を作成・配布して、事業所のサービス内容の開示にも努めている。

## ◇医療と看取りに関する指針の実践

協力医療機関の医師と代表者である看護師が連携を図り、安心して医療を受診し健康相談ができる体制にある。多くの看取り介護を経験しており、利用者と家族に入居時、重度化指針を説明して同意を得ている。利用者の病状と意向を確認し、最善の方法を採る方針を家族・関係者間で共有している。

## 【事業所が工夫している点】

◇家族には、毎月利用者の「ご様子お知らせシート」を送付し、利用者の日々の状況をありのまま報告している。利用者の血圧、脈拍、体温などの健康状態、内科医の受診日も記載し、利用者のできることで、できないことなどを手書きし、職員から見た日常生活の様子も記載して、暮らしの状況を知らせ家族の安心につなげている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことを、その方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。理念の考え方は職員会議の中で理解できるように話をしている。まだ理解できていない職員もいるので3カ月に一度は確認の場を設けていく。また、社内研修を行い意識付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念は、開設時に運営法人の代表者が「利用者ができること、分かることを探し、したいことへの気持ちに寄り添うこと」とし、玄関に掲示している。</li> <li>・職員は、理念を職員会議や朝の申し送りでも共有し、実践している。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加することや運営推進会議の出席などにより地域住民と交流できることを心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正月には地元の神社への初詣で、「どんど焼き」を見物し、職員は地域の防災訓練に参加している。</li> <li>・町内会のお祭りに、子ども神輿の休憩場所を提供し、また、ハーモニカ演奏、日本舞踊、フラダンスのボランティアが来訪し交流している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に交流のあった「地域の保育園・幼稚園」とのつながり、「中学生・高校生の社会学習の一環」として受け入れが、再び実現することが期待されます。</li> </ul>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談があれば、気軽に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年6回開催し参加者は4名～10名自治会の方が多く参加、色々意見をいただいたり、施設内のイベントの準備も手伝ってくれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は、地域代表、民生委員、地域包括支援センターと市役所の職員、利用者家族をメンバーとし、2か月毎に開催している。</li> <li>・会議では運営状況や活動内容を説明し、地域情報などを得て、サービス向上に活かしている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	厚木市の42介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。管理者は会の広報を担当し、包括支援センターや市議会とも話し合いの場を設けている。厚木市と協力し人材確保や合同研修を行い、それによりサービスの質の向上に取り組んで成果を上げている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者は厚木市市民健康部介護保険課と運営面や業務上について話し合い、相談をしている。</li> <li>・管理者は県央地区グループホーム連絡協議会の広報担当として行政と協力関係を築き、研修会や勉強会へ出席し情報収集に努めている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時・日ごろから「魔の三大ロック」物理的拘束、精神的拘束について説明している。外出したいとの希望に沿うように見守りしているが、玄関は防犯のため施錠している。マニュアルを見直し、また、ほとんどの職員が理解をしていると思う。研修も計画している。リスクである事も事例をあげ説明をしている。	・職員は、マニュアル「身体拘束等行動制限についての取扱要領」での勉強会に参加し、「身体拘束禁止」の正しい理解に努めている。 ・玄関は防犯・安全面から家族の了解を得て施錠し、利用者の帰宅願望には、職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会はある。事業所内で職員による不適切な言動があった場合には注意しているが、夜勤帯の職員1名の場合は定かではない。もしそのような職員がいるときには規定により解雇。研修の計画もあり、リスクである事も事例をあげ説明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表の職員が研修に参加し、講師になり事業所とグループ全体で研修会を開き周知した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時も時間をかけ理解していただけるように説明を行っている。一方的に話すのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するように配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者には、表情や態度から思いをくみ取るように努めている。入居者から運営に関する意見はない。家族とは来所時にコミュニケーションをとっている。また面談し説明、意見を聞き会議で提案し問題を解決し、結果を家族にも連絡している。今年度はシステム化したいと考えている。従来通り、ご意見シートの設置・ご様子の記録送付などで関わり意見を反映できるように努力している。	・家族には、運営推進会議や来訪時に、利用者の日頃の様子を説明し、要望を聞いて運営に反映している。 ・家族から、寒さが厳しいときは、利用者には靴下や洋服を1枚多く着せてほしい旨の要望があり、ミーティングで話し合い留意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せ細かいことは言わずに見守るようにしている。また提案制度を採用している。昨年度から職員面談を行っている。	・管理者は、毎月のユニット会議や、朝・夕の申し送りのとき、職員の要望や意見を聞き、運営面に反映している。 ・職員から、シフト体制に関わる申し入れがあり、要望に沿うように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より人員を多く当てるようにしていたが難しくなってきた。イベント時には職員を増員、調整し対応している。賃金面でも能力に応じて格差をつけている。休憩所の整備等も徐々に行っている。有給休暇を積極的にとるリフレッシュ休暇制度を導入している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れている。各委員会を作り職員に責任を持たせ企画立案をさせている。また、外部研修への参加もしている。安全管理でのKYT(危険予知トレーニング)も定期的に行い、ヒヤリハットについても実施し重大事故・と共に会議で議題としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の会が有り、集まり研修などにも積極的に参加している。管理者だけでなく他の職員も参加できるように配慮している。管理者は会の顧問をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、ご本人を含めた御家族と面接したり、利用されていたサービス事業所での様子を伺う等、細かく情報を集め、生活上の不安が減る様に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き不安、要望を把握して信頼関係を深めるよう、また、家族の不安を無くすコミュニケーションを図るように努めている。そこから得た情報を職員全員が確認しサービスを考え、信頼関係の向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成者、フロア担当が入居前に必ず本人と会い話を伺っている。情報シートを作成しアセスメントも事前に職員が確認できるようにしている。入居後もかかわりを持てるよう本人・家族と積極的にコミュニケーションを図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お食事の支度、お洗濯などの、お手伝いをしていただきながら一緒に楽しく過ごしております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様との日常生活で楽しかった出来事などを、ご家族がいらっしゃった時にお話しさせていただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話、お買物などで、馴染みの方、場所のお話しをして、楽しんでいただいております。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の知人や友人の来訪時には、居室に案内し湯茶の接待している。利用者によっては、家族と一緒に美容院や外食、墓参りに出掛ける方もいる。</li> <li>・利用者の出身地や育った場所の名物を食べ、風景や思い出話しをするなどの支援に努めている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの座席は、気の合う方同士で座ってもらっている。また、季節の行事でも利用者同士の交流をはかっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近いお宅には、お盆などお線香を上げに行っている。その他の方や遠方の家族とも今後かかわれるように考えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者や御家族より意見を聞き、確認した上で、サービスの意向を決定している。	・利用者の意向や希望は、日常の行動や表情の中から把握している。 ・家族の来訪時に話を聞いたり、生活歴を参考にしている。 自分から意向表示が困難な利用者には、入浴時や居室で話を聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や御家族より話を聞き、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が話し合い、体調の変化に即、対応出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へは、面会時や電話にて、ご本人様の様子をお伝えしながら、ご意見を伺い、スタッフの意見とあわせて課題を抽出し、プランに反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と家族の意向を確認し、主治医・看護師の意見を参考にして、カンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。</li> <li>・短期目標、長期目標を作成し、モニタリングし、見直しは6か月毎に行い現状に即した計画としている。</li> </ul>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリングを行うことで、ケアプランの実践状況を確認し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、ニーズに応じて対応出来るように工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ミニデイは地域の方が来て下さり、お祭りには参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医療機関への受診は、職員が付き添い、御家族への連絡を行っている。また、かかりつけ医がある場合は、御家族の方へ付き添いをお願いする様になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経科のかかりつけ医への受診継続の利用者には、家族から情報を得て、受診の継続を支援している。</li> <li>・協力医療機関の内科医が毎週、歯科医は必要に応じて往診し、往診結果は往診記録に記録して、職員間で共有している。</li> </ul>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や排便の状況など随時、連携医療機関の看護師に相談の上健康管理に努めている。また、連携については家族より安心できると評価をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者に状態を聞いたり見舞に行くなど直接様子を見に行き、退院時の受け入れに備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、職員にも方針を文章で知らせケアを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に「重度化における対応（看取り）指針と同意書」を説明し同意を得ている。早い段階から利用者、家族の意向を確認し、医師、看護師、職員と密接に連携し、話し合い最善の方法を採っている。</li> <li>・多くの看取り介護の実績がある。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで緊急時の対応方法を学び、話し合うことにより意識を高めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常用食料、水の備蓄をしています。全職員が避難訓練を経験できるよう配慮して頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の想定を入れて年2回、消防署への通報・消火や避難訓練、地震を想定した訓練も実施している。</li> <li>・緊急時の自治体との協力体制が整っている。</li> <li>・飲料水、食料、防災品等3日分をリスト化し備蓄している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	薬の内容は個人ファイルに添付してあり、いつでも確認できるようになっている。また、個人ごとに用法、薬の特徴、薬効、副作用等をラミネートしており、支援の前に確認できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇マニュアルがあり、職員は人格の尊重やプライバシーについて理解し共有している。</li> <li>・特に排泄時、入浴時に尊厳を傷つけないように職員同士が注意し合い、利用者が気持ちよく過ごせるように心掛けている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある時は本人に聞き希望にそうように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かをしたいという、お気持ちには、なるべく希望にそえるようにしているが難しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、ブラシやタオルを準備し整容を促している。出来ない方は、職員がかわりに整容を行い身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を出来るように準備したり声掛けを行ったりし支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材の調達、調理は職員が行い、利用者は買い物や配膳、下膳など簡単な手伝いをしている。</li> <li>・職員は利用者の見守りや介助をしながら一緒に食事をしている。</li> <li>・外食、行事食、誕生会で好みの食事を楽しめるようにしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄、水分表を見て残りの水分量を確認して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している入居者様には声掛けで出来ない入居者様には、介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	2時間おきに声掛けし、トイレへの誘導をしている。出来る所を自立してもらうようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表に沿って誘導し、自立に向けた支援をしている。</li> <li>・夜間オムツの利用者も日中はリハビリパンツで過ごし、トイレでの排泄を大切にしている。オムツの使用は慎重に検討して決めている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行が出来ない入居者様には、水分を多めに取ってもらうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否が、あった時は他入居者様と変更して行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回の入浴を基本としており、毎日入浴する利用者もいる。</li> <li>・入浴を嫌がる利用者には、無理強いつせず、職員を変えて再度声掛けをしている。</li> <li>・足が冷えやすい利用者には足浴もしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や寝具など、ご本人様の意見や様子を伺い、気持ちよく入眠できるよう注意している。排泄間隔を把握して睡眠を妨害しないよう介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個人ファイルに添付しており、いつでも確認できるようになっている。また、個人ごとに用法、薬の特徴、薬効、副作用等をラミネートしており、支援の前に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来ることを把握し、また好みやこれまでの生活歴から趣向を汲み取り、可能な範囲で役割を持って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のちょっとした散歩や買物に同行してもらい、積極的に外出の機会をもってもらいたい。イベント時には可能な範囲で外出できるよう企画している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日散歩に行き、日用品の買い物を職員と一緒にやっている。</li> <li>・半数以上の利用者が近くの美容院でカットや散髪をしている。</li> <li>・ファミレス、ハンバーガー店などで好みの味を楽しんでいる。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入居者の小遣いは施設で管理している。小額の買物の際は、入居者に支払いを行ってほしい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お食事の支度、お洗濯などの、お手伝いをしていただきながら一緒に楽しく過ごしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン等を使用し、温度調整を行っている。季節ごとの行事にちなんだ、装飾を行い、季節を感じてもらえる様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と一緒に掃除をしている。クイックルワイパーで毎日掃除をしている利用者もいる。</li> <li>・空調の調節は職員がしている。</li> <li>・利用者ごとに普段の様子や行事の写真を整理して掲示し、季節を感じる作品を飾っている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士、隣席にする等の対応をしている。又、自由に移動も出来る。ソファが有り、独りになる事も出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で、使用していた家具や装飾品等を持って来て頂き、穏やかに過ごせる様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明、エアコン、クローゼットが備えてあり、利用者は使い慣れた日用品を持ち込み、本人なりの飾りつけを工夫している。</li> <li>・家族が、季節に応じて衣替えをし、普段着は、利用者が職員と一緒に整理している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りと支援をしつつ、本人に出来る事は、してもらっている。物の配置には配慮し、安全に生活が送れる様にしている。		

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことを、その方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。理念の考え方は職員会議の中で理解できるように話している。まだ理解できていない職員もいるので3カ月に一度は確認の場を設けていく。また、社内研修を行い意識付けをしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の夏祭りやどんどやきに参加して交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で伝えている。地域ボランティアさんの来訪によるミニデイでは入居者さんの様子を見ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年6回開催し参加者は4名～10名自治会の方が多く参加、色々意見をいただいたり、施設内のイベントの準備も手伝ってくれている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	厚木市の42介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。管理者は会の広報を担当し、包括支援センターや市議会とも話し合いの場を設けている。厚木市と協力し人材確保や合同研修を行い、それによりサービスの質の向上に取り組んで成果を上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時・日ごろから「魔の三大ロック」物理的拘束、精神的拘束等については説明している。外に出たいときは希望に沿うようにし見守りをしているが玄関の鍵は防犯のため施錠している。マニュアルを見直し、また、ほとんどの職員が理解をしていると思う。研修も計画している。リスクである事も事例をあげ説明をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会はある。事業所内で職員による不適切な言動があった場合には注意しているが、夜勤帯の職員1名の場合は定かではない。もしそのような職員がいるときには規定により解雇。研修の計画もあり、リスクである事も事例をあげ説明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表の職員が研修に参加し、講師になり事業所とグループ全体で研修会を開き周知した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時も時間をかけ理解していたできるように説明を行っている。一方的に話すのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するように配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者に対しては表情や態度から思いをくみ取るように努力している。入居者から運営に関する意見はない。家族とは来所時にコミュニケーションをとっている。また面談し説明、意見を聞き会議で提案し問題を解決している、また、それを家族にも連絡している。今年度はシステム化したいと考えている。従来通り、ご意見シートの設置・ご様子の記録送付などで関わり意見を反映できるように努力している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せ細かいことは言わずに見守るようにしている。また提案制度を採用している。昨年度から職員面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より人員を多く当てるようにしていたが難しくなってきた。イベント時には職員を増員、調整し対応している。賃金面でも能力に応じて格差をつけている。休憩所の整備等も徐々に行っている。有給休暇を積極的にとるリフレッシュ休暇制度を導入している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れている。各委員会を作り職員に責任を持たせ企画立案をさせている。また、外部研修への参加もしている。安全管理でのKYT(危険予知トレーニング)も定期的に行い、ヒヤリハットについても実施し重大事故・と共に会議で議題としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の会が有り、集まり研修などにも積極的に参加している。管理者だけでなく他の職員も参加できるように配慮している。管理者は会の顧問をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の経歴等を知り、笑顔と共に話し合い、ご本人の状態や考えを知ろうと努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き不安、要望を把握して信頼関係を深めるよう、また、家族の不安を無くすコミュニケーションを図るように努めている。そこから得た情報を職員全員が確認しサービスを考え、信頼関係の向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成者、フロア担当などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることができるようになっている。入居後もかかわりを持てるように本人・家族と積極的にコミュニケーションを図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除度出来る事を提供している。職員の知らないこと等教えてもらうこともある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の変化や体調の変化を伝え、施設内で支援が難しいことや準備できない物等がある時は相談したり、支援をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人が面会される時は、一緒に過ごして頂けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等で利用者同士の交流をはかったり、日常生活の中で役割、娯楽を通じて共有できる空間作りを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近いお宅には、お盆などお線香を上げに行っている。その他の方や遠方の家族とも今後かかわれるように考えたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様、ご家族の意向を聞き、それを確認した上で利用者様の気持ち、状況に配慮し支援できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどのように暮らしてきたか、ご家族の話を参考にしたり、今後どのように支援していくのか情報を収集し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の変化、体調の変化に注意し、即対応できるようにしている。また、ミーティング等で職員同士意見交換し、より良い支援ができる様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングや個人記録等で本人の状況を知り、面会時の家族から話を聞いたりして現在の状況を伝え作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の報告や職員個人より情報をもらい、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態や体調に合わせたサービスを提供出来るように、ご家族と相談しながら様々なサービス提供に対応が行えている。機材の導入も積極的に行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援のミニデイや地域行事の夏祭りには必ず参加していて、一人ひとりの状態に合わせて、室内・室外どちらでも楽しめるよう地域の方々と協力して行えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前後は必ずご家族に連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や排便の状況など随時、連携医療機関の看護師に相談の上健康管理に努めている。また、連携については家族より安心できると評価をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者に状態を聞いたり見舞に行くなど直接様子を見に行き、退院時の受け入れに備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、職員にも方針を文章で知らせケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがある。普段からマニュアルを見直しする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っているが、夜勤専門職員など、参加できていない職員もいる。防災担当者が夜間の訓練や災害対応の文書作成に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訴えがある場合等じっくり話しを聞き共感するように心がけている。排泄や更衣などは周囲に配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴時間・その日に着衣する物等、出来るだけ本人の好み・生活習慣・希望に合うようにしている。本人が望む作業や家事などを提供したり、補助したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間やお昼寝の時間等、その方の希望があれば、できる範囲でそえるようにしている。起床入床時間は個々により違う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でなるべく好みの物を選んでいただいている。行事や外出時にはお化粧品をしていただいたり華やかな装いを楽しんでいただいたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	座って野菜の皮むきをしていただいたり、その方の出来る範囲で声掛けをし、関わってもらっている。片付けも声掛けを行いながら、すすぎをお願いしたりその方のペースでお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は、一日の必要量を摂取出来るよう援助しています。特に食事は体調や状況に合わせて、形態や量の調節を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。自立している人には声かけをして、支援が必要な人には職員が行っている。義歯はきれいに磨かせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつけて、声掛け誘導を行いなるべく失禁しないよう支援している。夜間も個々に合わせてトイレの誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や水分を摂取して頂く。また適度なマッサージも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の体制人数にも左右されてしまいますが、平日に入っていただけのような曜日で分けたほうが良いと思う。ただその日の体調変化もあるかと思うので、気持ちよく入浴できるように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆっくりと休めるよう室温明るさにも注意しながら、心ちよさのある環境にしてあげる。体調の変化にも対応出来るようフロアでも横になれる場所があると良い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分自身服薬されている薬の内容までははっきりと理解はできていないです。薬の目的・副作用・用法など職員全員が把握出来るように対策したほうが良い。服薬ミスの防止にもつながると思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体力がある方にはそれぞれお仕事を頼む事がありますが、時間がかかっても多少の行動、お手伝いはどの方にもやっていただけるよう声かけは必要だと思う。気候の良い時期は、外出できるよう支援する。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調の変化やその日の気温、天気に応じて、職員が付き添い行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいとして預かっている。必要に応じて、ご本人の希望に合ったものを買物している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のお付き合いのあった方に年賀状をだしている。電話をする方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に気を使って調整をしている。階段・廊下・居間等は入居者様にも手伝っていただきモップがけをしています。居間は季節感や生活感をとり入れた飾り付けをして、会話等がはずむように工夫しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が会話等楽しめるよう、自由に移動も出来るようにしている。独りになりたい方は、ソファも利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が自宅で使用していたみなれた物・写真・誕生日の色紙等を飾ったりして楽しんでいる。又、自作の短歌を飾っている入居者様もおります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りと支援をしつつ、本人に出来る事はなるべく自分でしてもらっている。トイレの場所の表示をつけ、自分で行けるようにしている。台所仕事、皮むき、テーブル拭き、洗濯干し、たたむ事も出来る方にはお願いしております。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 どんぐり庵

作成日 平成30年10月18日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	職員全員が役割、楽しみごとの支援が、出来ていない。	職員全員が、役割、楽しみごとの支援が、出来るようにする。	役割、楽しみごとを考え情報共有をし、実際に行う。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					